

平成30年度 授業研究会 全体会記録

①開会

②校長挨拶

お忙しいところ、2人の先生方には来校いただきありがとうございます。また、羽後中学校の原田明子先生には分科会で有意義な意見をいただいたと聞きました。研究主題は『「本時の目標」の達成につながる効果的な発問の工夫 生徒の思考力を伸ばし、充実感・達成感を実感できる授業の実践』です。本日は3年C組で小松先生が現代文の授業と、1年C組で富谷先生が家庭科の授業を行いました。よろしくご助言をお願いいたします。

③指導助言者紹介

高校教育課 指導班 指導主事 櫻田 瑞子 先生

秋田中央高等学校 教育専門監 浅沼 和子先生

④分科会報告

国語科より

小松先生が俳句を題材に授業を行った。参観された先生方からは、「クラスの雰囲気良く、生徒は生き生きと活動していた。」「作品発表をし、感想を述べるという点で聞く力も身につけることができる。」「生徒は思ったより表現力があり、自分の授業に活かしたい。」「中学校でも俳句の授業を行っており、もっと高いレベルを求めても良いのではないか。」などの意見があった。また櫻田先生より、学習の系統性が大事であること、本時の目標を決めてから中身を考えること、グループ活動と個で考える活動を明確に分ける必要があるという指導助言をいただいた。

家庭科より

富谷先生が「これからの消費生活と環境」についての授業を行った。授業者からは、今日はSDGsについて触れたり、ICTの使用を試みたが、活動を詰め込みすぎてしまった、との反省があった。参観された先生方からは、「準備に時間をかけており、心温まる授業であった。」「思考力を育むには、グループ内で話し合ってから意見を出した方が良い。」「端縫いの紹介をしたらどうか」「もっと生徒に自分で考えさせる時間があってもよい。」「日常との関連があっても良い。」「生徒との信頼関係ができています。」などの意見があった。また、浅沼先生から、教材研究がしっかりしており、グループワークの役割分担や、ホワイトボードの使用、他教科と連携していることなど良い点がたくさんあった、メインの発問にもっと時間をかけるとより良い授業になった、SDGsについてはこの後地域との連携につなげると良い、という指導助言をいただいた。

⑤質疑応答

・今回の授業研究の研究主題は『「本時の目標」の達成につながる効果的な発問の工夫 生徒の思考力を伸ばし、充実感・達成感を実感できる授業の実践』だが、各教科で工夫している点などあれば教えてほしい。

(地歴・篠木先生)

映像資料を使用したり、タブレットを用いたりするなど題材に興味を持たせるように工夫している。

(理科・吉成先生)

科目によって実験等いろいろなスタイルがあると思うが、思考力を育むには基礎的な力がないといけない。丁寧な言葉に代えて伝えるように気をつけている。

(数学・小野寺先生)

数学が苦手な生徒が多いので、わかる授業を心がけている。チームティーティングでは岡田先生が、説明しすぎず生徒に考えさせる授業を行っている。

(英語・佐藤)

レッスンのまとめの活動で、タブレットを用いて調べ学習をし、発表する活動を取り入れている。達成感を得ることができるよう心がけている。

(国語・富樫先生)

生徒たちには基本的な語彙力不足が見られるが、わからなくても素通りすることがあるので、重ねて聞くようにしている。また、グループ活動では一人1回は話すようにしており、話すことで達成感を感じられるよう工夫している。

(商業・高城先生)

生徒たちは中学校で習っていても、理解していないことがある。授業の最初10分間は1学期の振り返りをするようにしている。繰り返すことで達成感を身につけることができる。

(生物・阿部大先生)

今学んでいることが、何に役立つのか明示することが達成感につながる。体験できることはその場所へ連れて行って体験させるようにしている。

(公民・仲川先生)

授業の最初5分間で生徒たちが関心あるニュースについて問いかけている。生徒との会話を通してコミュニケーション力を高められるのではないかと。生徒から学ぶことも多い。

(保健体育・仙道先生)

保健では羽後や湯沢など、身近な問題を取り上げるようにしている。体育は不得意な生徒でもバスケットボールでシュートが決まると非常にいい表情になる。良い点を引き出したい。

(家庭科・富谷先生)

グループ学習については、一人ではなかなか意見を出せないからグループで...としてしまい

がちである。体験学習については、ただ楽しいだけで終わってしまっている面もある。授業アンケートで、「考えさせる授業になっているか」という項目が低かった。グループ学習、体験学習をどのように取り組むべきか、考えていかないといけない。

⑥指導助言

UNESCO ナマハゲがユネスコ無形文化遺産に登録されるとニュースになっている。伝統行事の担い手が不足しているとも話題になった。羽後高校では羽後学を通して地域を学び、生活文化コースでは道の駅コラボ商品開発を行っている。地域に根ざしたキャリア教育をぜひ進めてほしい。体験学習、グループ学習は意義が大きい。まずは自分で考えることと、次にグループで自分の考えを相手に伝え、次の学びにつなげることが有効である。目的を持ったグループ活動を行って欲しい。体験学習は、振り返りを書くことで次につながる。

今日授業を見て、先生方が日頃から生徒と良い関係を作っていると感じた。新学習指導要領にはカリキュラムマネジメントという言葉がある。各学校が生徒や地域の状態を把握した上で組織的に取り組んでいくこと、生徒にどんな力が付いているか、付いていないかを把握して、学校目標、学年目標、教科目標を立てることが重要である。

今日持参した資料は、ユニバーサルデザインについてまとめたものである。この考え方は授業にも有効である。1の焦点化、4の視覚化、6の共有化が大切だ。共有化の部分では、生徒の発言を共有し、褒める部分は本日の授業ですでに実行されていると感じた。1と4をさらに発展させて欲しい。授業で何を身につけさせたいのか、ねらいを焦点化し、本時の目標は生徒に示すことと、1時間の学びがわかるような黒板、プリントを工夫することで、授業の充実につなげて欲しい。羽後高校の生徒は素直で発表の態度も立派であった。この後もしご指導よろしくお願ひしたい。

⑦閉会